密着！ 介護支援専門員　佐藤 究

八面六臂（はちめんろっぴ）の大活躍。日々、忙しく立ち回る彼こそ、
ハトホームの専任介護支援専門員、佐藤究である。

入居者の方が、ハトホームで安心して過ごすことができるようにと、ご本人や家族の方と様々な事柄について相談。どのような介護が必要なのかを見極め「最適なケアプランを提供する」という、大切な役割を担っています。

愛用の手帳は真っ黒です。

もちろん、かの有名な「黒革の……」ではありません。
細かい字でびっしりと書き込まれたケアプランや
通院の予定。余白の出る幕がないほどです。

「如何（いかん）せん時間が足りない たりない……」

口癖になってしまうのも納得です。

そんな究さんの仕事には、入居者ご本人や
様々な職種の職員、家族の方とのやりとりなどの
連携から大きなヒントを頂くことが多いとのこと。

これからも人脈を最大限に活かし、ハトホームの
介護を支える“扇の要”としての活躍を期待しています。

新型コロナウイルス感染症禍における様々な自粛へのご協力に感謝いたします。
ハトホームでは、不特定多数の外部との交流は自粛しておりますが、
施設の中はできうる限り「変わらぬ生活」を送っていただいております。
コロナウイルス感染症への対策が確立するまでの間、今暫くのご協力をお願いします。

《発行》　社会福祉法人　村山苑
特別養護老人ホーム　ハトホーム
発行責任者　畠山千春
《編集》　ハトホーム　広報委員会
〒１８９－００２４　東村山市富士見町２丁目７番５号
TEL　０４２－３９３－７５７４
https://www.murayamaen.or.jp/hatohome/
E-mail　hatohome@murayamaen.or.jp　　2020年7月末日　発行
※写真・作品は、個人情報保護法に基づき、本人承諾のうえ掲載しています。

ホームページも
随時更新
しています

FREE　ご自由にお持ちください。

村山苑

はとほーむ

第55号

「新人職員紹介」　「素顔」
「ICT 奮闘記」
「密着！介護支援専門員」

新人職員 紹介コーナー

連載形式でご紹介します

嬉しいことに、ここ半年の間で
ハトホームに多くの職員を迎える事ができました。

【２階　介護職員　　原田 裕美】

これまで、ずっと事務職として働いていた私にとっては、不安もありましたが、昨年９月に府中にある訓練校で実務者研修を修了した上で、ハトホームに就職する事を決意しました。

福祉業界については以前から興味があり、介護の仕事も「大変ではあるけれど、やりがいがある」と思っていました。

多くの仕事を新たに覚えることには、想像以上の苦労もあり、あたふたする事も多いのですが、“寄り添う介護”をモットーに頼れる福祉ワーカーを目指して頑張っていきます。

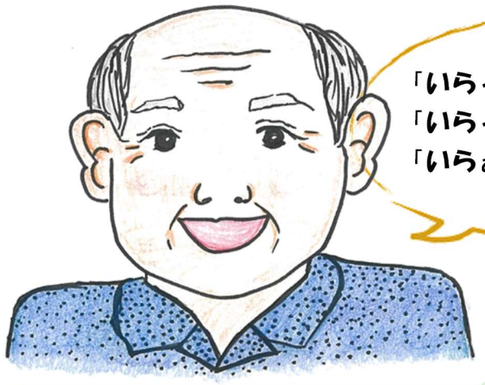
【２階 介護職員　川﨑 大祐】

２月にハトホームに就職しました川﨑です。

これまでは、派遣職員として介護に携わってきましたが、今回、職員として挑戦したいと思い、ハトホームに就職しました。

職員には、広い視野でよく観察し、その時々の状況下での「必要に応じた様々な行動」が求められます。先輩職員からよく学び、自分の肥やしにし、実践していきたいです。

“あなたが居てくれてよかった”そう言われるような職員になれるよう、日々頑張ります。



「入居者さんの素顔」

今日も陽気な声が聞こえてきました。
八百屋さんで培った大きな声は、
みんなを元気にしてくれます。

「おっはよぉ～ございます」と、まっすぐに見つめてくる「くりっと丸い大きな瞳」
愛嬌たっぷりの笑顔で手を伸ばし、通りかかる人に握手を求めてくる**克実さん**。
さぞかし商売上手だったのではと想像しています。

大好きな音楽番組を見ながら上機嫌で歌い、野球中継には身を乗り出して声援を送る。

底抜けに明るく、情熱的で、まっすぐな『男前（ナイスガイ）』です。

「お仕事大変でしょう？」
いつも気遣ってくださる喬子さん。
丁寧な言葉遣いに、職員は恐縮しきりです。
「どうもすみません」
夜中にお布団を掛け直した時にもこの調子です。ぐっすり寝ていらっしゃるご様子だったのに!?

開業医の夫とともに、地域医療を支えてきた喬子さん。患者さんにも優しかったのでしょうね。
改めて見習わなくてはと、襟を正す思いになります。

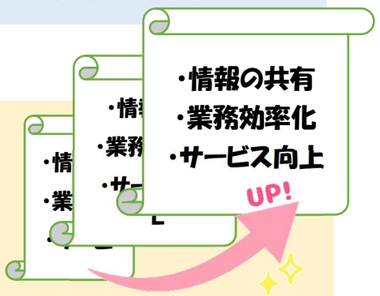
近頃は、編み物をしたり本を読んだり、お手紙を書いたりと、つつがなくお過ごしのご様子。

とてもやさしく、気遣い細やかな、稀（まれ）にみる『淑女（レディ）』です。

ハトホームの「ICT 奮闘記」

ICT とは「Information and Communication Technology」の略で、
通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。
ハトホームでは、ICT を活用した福祉業務支援ソフト「ほのぼの NEXT」を導入しました。
記録のシステム化（電子化）で、記録業務の省力化・情報の集約や共有の効率化を図り、
より多くの時間を「入居者サービスの向上」に活用していきたいと考えています。

「私もしっかりと頑張ります！」



ほのぼの NEXT の運用が始まりました。
手書きの記録ファイルが姿を消しました。

私にとっては、些（いささ）か不安なスタートとなりました。

出勤するとすぐに、パソコンの画面に向かい、事務連絡をチェック、
タブレットで日誌の確認をして、情報を頭に叩き込みます。
もちろん、記録はすべてデジタル。おぼつかぬ入力作業……。

運用開始からひと月。スムーズに使いこなす周りのスタッフに
「すごいなぁ～」と羨望のまなざしをおくる日々。
いやいや、だめだめ。私もしっかりと頑張ります！

「決して苦手ではないのだけれど……」

青天の霹靂（せいてんのへきれき） ともいうべき情報が舞い込みました。

分割が決まったハトホーム。
南館建て替えのための壮大な引っ越しに併せて、北館の大規模修繕まで実施……。
「平成から令和にも変わったし」って、これは関係ないか。

兎（と）にも角（かく）にも、施設全体あわただしい日々の中での追い打ち。

「記録の電子化（システムか）ですと!?」

前々から検討していたことは知っていましたよ、
いつかは必要なことだと理解してもおります。もろもろの事情もあるでしょう、でもね……。
「今ですかねぇ？」
声を大にしたい気持ちをこらえて向き合いました。

６月の切り替えに向けた併用期間。手書きも電子記録もと、作業量は倍増しました。
いろいろと設定上の作業もかさみました。これはこれで、とても大変でした……。
いやはや、決して苦手ではないのだけれど、大事だと思いませんか『た・い・み・ん・ぐ』。